

(一財)東京顕微鏡院 食と環境の科学センター 環境検査部

室内空気環境検査-学校環境衛生と関わった20年間の歩み

当法人が室内空気環境検査を開始したのは、1992年、室内環境学会の前身である室内環境研究会が発足する2年も前のことでした。きっかけは、東京都教育委員会がホルムアルデヒド、二酸化窒素をはじめ、ダニアレルゲン、落下細菌・真菌などの基準を盛り込んだ東京都学校環境衛生基準を制定したことにともなう実態調査を担当したことでした。調査を行うに当たっては、村松學先生(当時：杉並西保健所)、松村年郎先生(当時：国立衛生試験所)の歴代の室内環境学会会長をはじめ、岡本繁雄先生(当時：東京都教育委員会)、杉下順一郎先生(当時：東京都学校薬剤師会)など多くの方々にご指導をいただきました。この基準制定は文部科学省が学校環境衛生の基準を一部改訂し、ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の基準値を定める5～10年も前のことですので、いかに先進的な取り組みであったかがわかります。

その後、1997年に厚生労働省からホルムアルデヒドの室内濃度指針値が公表されます。東京都実態調査でノウハウがあった当センターは、この当時ほとんどの検査機関では行えなかったホルムアルデヒドの検査受託を速やかに開始することができました。

さらに、2000年には東京都から遅れること8年、ようやく文部科学省が学校環境衛生の基準改訂に動き出します。過去の実績が認められ、2000年～2005年まで文部科学省が行った全国の学校環境実態調査を当法人が担当しました。2006年からは現公益財団法人日本学校保健会が斡旋する室内環境検査の分析機関としての役目を担うなど、当法人の室内環境検査の歴史は学校環境衛生検査とともにあったといっても過言ではありません。

近年では、千葉大学と協賛各社が推進する“ケミレスタウン®・プロジェクト”-「シックハウスの原因となる化学物質をできるだけ減らした住宅や学校などの街づくり」の実施に際し、当法人では、元東京都健康安全研究センターの瀬戸 博先生を技術顧問としてお招きし化学物質の測定技術を提供して協力しております。

手探りで始めたホルムアルデヒド分析から約20年、現在では約80成分の化学分析を行っております。これからも常に最先端の分析技術をご提供して参りたいと思います。(環境衛生営業部 箭内慎吾)

